

令和5年度 学校の教育目標と経営方針

1 学校の教育目標

仲間と笑顔で挑戦！

【校長の夢】

鳥飼小学校の子どもと教職員のほこりが見える学校にしたい。

- ・自分のせいいっぱいを出す子どもと教職員
- ・かけがえのない人として、自分以外の人に関わる子どもと教職員
- ・互いにカバーし合い、共に成長する子どもと教職員

2 本校の基本的目標

(1) めざす児童像

○「笑顔」の子どもとは

- ・学校生活を楽しみ、自分自身のよさを実感できる子ども
- ・学習が楽しく、学ぶ喜び・わかる喜びに満ちあふれた子ども
- ・心と体の健康や安全・安心を大切にする子ども

○「仲間と挑戦」する子どもとは

- ・あきらめずに最後まで挑戦する子ども
- ・ルールを守り、自分も他の人も大切にして協力する子ども
- ・仲間の喜び・きつさ・哀しさを共有し、自他のよさを高め合う子ども

(2) めざす学校像～安心して過ごせる楽しい学校～ ※別紙資料参照

- みんな(子ども・教職員・保護者・地域)でつくる「みんなの学校」
- きまりを守ることで、みんなが大切にされる学校
- 気持ちのいい言葉が行き交い、安全・安心をつくりだす学校

(3) めざす授業像～学ぶ楽しさを実感する授業～

- 各教科の見方・考え方が身につく授業
 - 書く力を中心とした基礎・基本的な学力が身につく授業
 - 見通しやふり返りをもとに主体的に取り組む授業
- ※教師の役割 インストラクターからコーディネーター・ファシリテーターへ

(4) めざす教職員像～確かな児童理解ができる教職員～

- 子どもと向き合い、生活背景をつかみ、ひとりも見失わない教職員集団
- 決めたことはみんなて実践し、語り合い、共に汗を流す教職員
- 感性や人権感覚を磨き、子どもの姿を自分の実践の結果ととらえる教職員

3 学校経営全体構想

| 教育課題 | 経営課題 |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 主体的に学ぶ子どもの育成 <input type="checkbox"/> 基礎基本の定着（CD層の学力保障）と思考力の育成を目指す確かな学力の育成 <input type="checkbox"/> 相手を思いやり、互いに支え合う人間関係力の育成 <input type="checkbox"/> 根気強く、最後までやり抜く体力・耐力の育成 | <input type="checkbox"/> 参画意識の向上と協働体制の確立 <input type="checkbox"/> 教育課題の解決を目指す実践指導力の向上 <input type="checkbox"/> 教育課題の解決を目指す分掌組織（4部会）の実効化 |



【本年度の重点目標】共に学びに向かい、自分の考えを表現する子どもの育成



| 学びをつなぐ授業 | 楽しい学校 |
|---|---|
| 1 とりかえ授業スタンダードの確立 <input type="checkbox"/> 問題解決的な授業展開（ステップ4～7） 2 自分ごととして考える授業づくり <input type="checkbox"/> C層・D層を明確にし、学びにつなぐ活動の工夫の共通実践 <input type="checkbox"/> 「自分の考えを表現し、交流する」共通実践 3 朝スキルの充実 <input type="checkbox"/> 目標とふりかえり、できたことの「見える化」（評価）の充実 4 キャリア教育の重視 <input type="checkbox"/> 学ぶことの意義を実感する授業 5 ICTの活用 <input type="checkbox"/> 思考ツールの活用（ジャムボード等） | 1 児童理解、成育歴・生活背景の共有 <input type="checkbox"/> 一人一人の子ども研究を <input type="checkbox"/> こども基本法の共通理解 <input type="checkbox"/> ケース会議の充実※医療的ケア児含む 2 児童の主体的な学級参画 <input type="checkbox"/> 学級経営システムの共通実践 <input type="checkbox"/> 学級紹介動画の共通実践 3 ねらいを明確にした学校行事の充実 <input type="checkbox"/> 自主活動を支える見通しと組織化 4 差別を許さない子どもを育てる授業 <input type="checkbox"/> 認識のカリキュラムの共通理解 5 積極的な生徒指導の充実 <input type="checkbox"/> 生徒指導提要の共通理解・共通実践 <input type="checkbox"/> いじめ・不登校対策委員会の定例化 |
| 教師力の向上 | 学校・家庭・地域の連携強化 |
| 1 久留米授業スタンダードの充実 <input type="checkbox"/> とりかえ授業スタンダードの共通実践 2 感性や人権感覚を育む研修 <input type="checkbox"/> 当事者や差別の現実に学ぶ（人権学習会、人権・同和教育研究集会等） 3 日々の授業や教育活動に応じたOJT研修 <input type="checkbox"/> ミドルリーダーとしての自覚 4 チーム学校の体制づくり <input type="checkbox"/> 4部会の実効化 5 働き方改革の推進 <input type="checkbox"/> 「見通し、選択と集中」の合い言葉、ICT活用 | 1 地域学校協議会の活性化 <input type="checkbox"/> 新たな提言、放課後学習会の支援等 2 保護者、PTAとの連携充実 <input type="checkbox"/> 家庭訪問、便り等での情報共有 3 登下校の安全（特に、水害の際） <input type="checkbox"/> 地域安全パトロール、PTAとの連携 4 江南中校区プラン・人権のまちづくり <input type="checkbox"/> 目的の共通理解、保幼小中連携、地域連携 5 家庭学習の在り方 <input type="checkbox"/> 家庭学習モデル提示、自学学習の強化 |

4 取組の姿勢

◎子どもを一人の人間として尊敬する。

※〇〇の条件を満たしている子のみ好きになっていませんか？どの子にも声かけしてありますか？

- ・「ありがとう」のチャンスを見つける教職員集団でありたい。
- ・子どもとの関わり、子ども同士の関わりを積極的に図り、多様性を認め合える学級集団づくりを行う。(教員のクラスルームマネジメント力を育成する)

※子どもたちが相互に援助しあうような環境をつくる、そのためのコーディネーターとなる。

- ・「子どもを育てる」から「子どもが育つ」への意識変革

※「なぜ できないの？」から「どうしたら できると思う？」の頭の切り替えを。

◎人権・同和教育、特別支援教育の充実を図る。

- ・いじめや差別をしない、許さない、命を大切にする意識の醸成を進める。
- ・インクルーシブ教育の共通理解を図り、実践力を高める。
- ・医療的ケアについての共通理解を図り、全職員による指導・支援を進める。
(必要な配慮・支援はするけど、特別扱いはしない)

◎キャリア教育の充実を図る。(将来に対する夢や希望を持つために)

- ・達成感を持たせる。(陰山メソッド、スポコン広場、学級活動、学校行事)
- ・他者からの期待感を持たせる。(身近な方からの肯定的なメッセージの紹介)
- ・保護者、地域、事業者と連携して、学びや働くことの意義について考えさせる。

◎チーム鳥飼として支え合う。

- ・目の前の子どもの姿から授業や学級経営の改善に取り組み、授業公開や情報交換等でお互いの実践のよさを学び合う。
- ・「報告-連絡-相談-確認」を的確に行い、各事象に関して組織として早期発見・迅速な対応に努める。
- ・相談は一人での対応でいいが、苦情の対応は一人で行わないこと。必ず、管理職に相談して複数で対応にあたる。

◎居心地のよい教育環境づくりに努める。

- ・子どもにとって安心、安全であるとともに、様々な資質・能力を醸成する学校環境を築く。
- ・「ピッチャー」のような教師から「キャッチャー」のような教師に。
- ・積極的に「依存」できる環境構成を。→「わからない、教えて」と言えるように。

◎ウィズコロナの学校生活をふまえて、教育活動を見直す。

・ウィズコロナの学校生活をふまえて、前例にとらわれず、柔軟に教育活動を見直す。その際の見直しは、「子どもに必要な資質・能力の育成のために必要な教育活動なのか」である。安易にコロナ禍前の教育活動に戻すことはしない。今まで、感染防止のために十分にできなかった子ども同士の関わりを、意図的につくることも考える必要がある。また、家庭・地域がかかわる活動については、共通理解の上で活動を進める。